

日本におけるマイノリティの教育 の 理論と実践

岡部 美香(人間科学研究科)

榎井 縁(人間科学研究科)

櫻井千穂(人文学研究科)

日本における近代化の行き詰まり、そしてグローバル化

- 近代化の負の側面

環境問題、原子力時代の科学技術の問題、自然災害⇒人災

少子高齢化、経済発展の行き詰まり・・・

- グローバル化によって・・・

国際的にも、国内においても多様化・複数化が進むかと思いきや・・・

標準化が過度に進みつつある(Ex. 国際的な学力テスト **PISA**、**TIMSS**)

日本における近代化の行き詰まり、そしてグローバル化

- 近代化や標準化としてのグローバル化への反省 ⇒ 多様化・多文化共生

人権意識の向上

ユーロセントリズム、コロニアリズム、オリエンタリズムの超克

近代批判(ポストモダンの思想)

⇒ 他なるもの、異なるもの、多様なものにかかれた教育へ

日本における近代化の行き詰まり、そしてグローバル化

国際的な動向

- **子どもの権利条約** (1989 国連総会採択 1990 発効 1994 日本批准)
- **障害者の権利に関する条約** (2006 国連総会採択 2008 発効 2014 日本批准)
- **SDGs** (2015 国連総会採択 2016 発効 MDGsより継続)

目標4 「すべての人に**包摂的かつ公正な質の高い教育**を確保し、生涯学習の機会を促進する」

- **OECD EDUCATION 2030**

Well-being, **Redefining Growth**, **Great Reset of Capitalism**,

Equality(平等) → **Equity(公正・公平)**, Integration(同化・統合) → **Inclusion(包摂)**

誰一人取り残さない社会へ

- SDGsのスローガン 2015年

誰一人取り残さない社会の実現に向けて

- 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（**教育機会確保法**） 2016年
 - ⇒ **夜間中学校**、フリースクール等への注目

だがしかし、問題は山積・・・特に遅れている課題はこれ！

「外国人児童生徒等の教育の充実について」(文部科学省 2020)

誰一人取り残さない社会へ

- 外国にルーツを持つ児童生徒の人数増加に対応できていない
- 学習保障が義務教育段階に限定
 - 日本で定住ないし就労するには、高等学校を卒業する必要あり
- 母語・母文化の保障が不十分
 - 日本語・日本文化への同化・統合ではなく、多文化的な包摂へ

誰一人取り残さない社会へ

- 夜間中学校

全国36校のうち11校が大阪府内にある

高齢者／オールドカマー／ニューカマー …… ニーズの多様化・複雑化

- 「梓校」と呼ばれる大阪府立高校8校

外国にルーツのある子どもたちに向けた入試枠

同じく特有のカリキュラムを展開

⇒ **自己肯定感を高め、民族アイデンティティを尊重する識字教育、歴史教育**

⇒ **母語・母文化の保障**

誰一人取り残さない社会へ

- グローバル日本学教育研究拠点・人材育成部門

社会学連携型・高度副プログラム「**日本におけるマイノリティ教育の理論と実践**」

【理論学習編】

人間科学研究科の講義・演習

… … 教育格差をはじめとする現代の国内外の教育状況（岡部）

マイノリティに向けた教育の現状と課題（榎井）

言語文化研究科の講義・演習

… … 日本語教育の基礎（櫻井）

誰一人取り残さない社会へ

- グローバル日本学教育研究拠点・人材育成部門
社学連携型・高度副プログラム「**日本におけるマイノリティ教育の理論と実践**」
【実践・フィールド研究編】
大阪府立 福井高校・西成高校など
守口市立 守口さつき学園 夜間学級 でフィールドワーク

理論をしっかりと理解し、きちんと実践に生かせる社会人を養成！

【A】あるいは【B】のコースを選択

- 【A】(全員選択可)

[初年次]〈理論研究科目群〉①(教育哲学特講) + ②(コンフリクトと共生の諸問題) + ③(日本語・日本文化を考えるD))

[2年時以降]〈実践応用科目群〉④(総合人間科学実習 I・II)

- 【B】(日本語教育の専門基礎知識・技能をすでに習得している人)

[初年次]〈理論研究科目群〉①(教育哲学特講) + ②(コンフリクトと共生の諸問題) + ③(日本語教育学研究III)

[2年時以降]〈実践応用科目群〉④⑤(未来共生ソーシャルアクション I・II
／総合人間科学実習 I・IIのいずれかを選択)

興味がある人へ！

まずは、

春・夏学期金曜2限・人間科学研究科で開講される

「**教育哲学特講**」に参加してください。

この講義の初回に、この高度副プログラムの
受講の仕方などを詳しく説明します。

2022年度は、5名が受講しています。